

西部センターだより 2号



H27.7.30

弁当が語る家庭の事情



学校は夏休みに入りましたが、学校のお話をいたします。学校と言えば、給食が定番です。

私は県内でも珍しかった弁当持参の中学校に勤めていたことがあります。生徒にとって、弁当の時間ほど楽しい時間はありません。しかし、この時間を苦痛に感じている生徒に初めてこの学校で出会いました。学級で生徒たちと一緒に弁当を食べていると、毎日仕出し弁当を注文している生徒でした。彼は、いつも美味しくないと素振りで弁当をつつきながら口に入れていました。そのことがわかってからは、何気なく彼の様子を観察するようになりました。彼は、一回として完食することはありません。毎日多くを残したまま、弁当の容器ごと教室に備え付けのごみ箱へ放り投げているのです。

家庭教育について、私自身深く考えるだけの技量もなく、教員経験も浅かった頃のことです。けれども、家庭にはそれぞれに事情があるということは理解しているつもりでした。私ができるのは、担任として見守ることだけでした。保護者に、「お子さんにお弁当を作られてはどうですか」と家庭内のことに口出しすることはできかねました。それから、担任として憂鬱な日が始まったのです。

そんな状況が続くうちに、ある転機が訪れました。それは、家庭訪問でその保護者と会話をしたことがきっかけとなりました。直接お話をして、弁当事情の訳を知ることが出来たのです。彼は、弁当を作ることができない親の苦労を十分わかっていたのです。けれども、美味しそうな友だちの手弁当を見れば、やり切れない気持ちを押し返すことが難しかったのでしょう。自分にはどうすることもできない苛立ちや満たされない気持ちを仕出し弁当にぶつけていたのです。合点がいった瞬間です。親も子どもも様々な困難を抱えながら生きていることを実感した瞬間でもありました。それが彼との会話の糸口となり、次第に二人の距離も縮まってきたように思います。弁当は、家庭を映す鏡だと言えます。言い換えれば、家庭教育の様子を垣間見ることができます。この出来事は、私の教員人生にとって大変貴重な経験となりました。

さて、平成18年には教育基本法が改正されて、家庭教育の役割の大切さについて初めて法律で規定されました。改めて条文を読んでみますと、保護者は子どもの教育について一番の責任があると示されています。そして、国や地方公共団体はその支援に努めるともあります。

そうは言っても、昔以上に今は様々な家庭環境の中で子どもたちは生活しています。一方、保護者自身も子どもの教育に第一義的な責任があることをわかってはいても、物心両面の余裕がなく家庭教育が十分果たせないところもたくさんあります。多くの大人たちがわが子以外の子にも関わりをもつような支援が求められている所以は、このような部分にあるのではないのでしょうか。三度目のPRとなりますが、「親学プログラム2」がよいよ10月末に完成いたします。皆さんが地域の子どもたちと関わりをもって頂かれますことを願っています。

追伸 ある日、一人の生徒が弁当を忘れました。隣の生徒が自分の弁当箱の蓋におかずを少し載せて、「これ食べるよ」と差し出しました。すると、みるみるうちに沢山の生徒がご飯やおかずを装い私も卵焼きをお裾分けしました。素晴らしい弁当の出来上がりです。弁当給食ならではの心温まる光景にも出会えました。

所長 狩野 正夫

8月・9月の研修
講座のお知らせ

日程	研修名	会場
8/21(金)	「親学プログラム2」対応 親学ファシリテーター養成講座	川本悠邑ふるさと会館
9/14(月)	市町村社会教育担当者研修(全県)	大田市民会館
9/29(火)	第4回公民館等職員研修	いわみーる



第1回:5/20(水)

「これからの公民館に求められる役割と機能について考える」



[講義]「これからの公民館の役割と機能 / 公民館職員に求められる資質・能力」
県社会教育課サブリーダー: 山本芳正氏

山本SLは、公民館職員に求められる資質・能力として、コーディネート力、ファシリテーション力、プレゼンテーション力、企画・立案力、コミュニケーション力をあげ、これらの力を高め活かすことで、地域づくりの主体者を増やし、地域の未来を創り広げてほしいと話されました。

[演習] (ラベルワーク: 公民館職員に求められる資質・能力)
出た意見→笑顔・地域分析・情報収集能力・冷静さ など

[情報交換] (ラベルワーク: わがまちの現状)
自分の地域の現状をふり返り、課題意識をもてるように

[演習・講義] 地域課題把握と学習課題の設定
○ワークシート0の作成
地域の現状から、めざす地域像を思い描く
○「地域課題」の把握
地域の現状とめざす地域像との間にあるギャップを埋めるためにすべきことは・・
○「学習課題」の設定
地域課題解決のために住民が学び取り組むべきこと

[演習] 事業決定
7月～8月に事業を実施することを意識して考える



第2回:5/29(金)

「実践から公民館活動を見つめ直す」

[演習] 地域課題・学習課題・事業概要の確認
前回の宿題のワークシートをもとに情報交換

[実践発表①] 江津市の取組みの実際
江津市教育委員会社会教育課: 植田絃司氏

江津市で策定された社会教育計画の説明をされました。社会の要請に応じた内容にするために、地域で社会教育活動をしている実践者を集めワークショップを重ねられたと話されました。各事業のねらいが明確になり、当事者意識の醸成がなされた点などの効果をあげられました。

[演習] 実践事例の分析

[実践発表②] PDCAサイクルを活かした公民館事業の実際
鳥巣コミュニティセンターチーフマネジャー: 山崎順子氏

毎年年間テーマを設定し、それを基に地域課題の解決にむけた学習課題を設定し、事業展開されている様子が紹介されました。地域の声を聴き、アンテナをはり、若い人の参加を促す工夫が伺えました。

[演習] 実践事例の分析

[演習] 事業概要のリデザイン

- 地域課題は1つか2つにしぼって・・
- 学習課題は、地域課題を解決するために住民が学び・取り組むべきことにしぼって・・
- 事業名は参加者がイメージしやすい表現で・・
- 「だれを」「どう変容させるか」を明確に、また、課題につながっているか・・
- 事業概要は、ねらいを達成するために必要な内容か？

[事例発表] 地域ぐるみで子どもを育み 子どもも地域も高まり合おう ～浜田一中校区の取組～ (浜田会場のみ)

[実例発表者]
江木真由美氏・柳川智己氏・栗栖真理氏・佐々木伸氏
皆さんには、めざしたい地域、自分の役割、工夫したことの3点を話していただきました。

★江木さんは、公民館活動に参加するボランティアの意識の変容を例に、公民館主事として、一人ひとりの魅力を引き出し自立を促すため、寄り添い無理なくできるような声かけをしたいと話されました。

★柳川さんは、学校支援CNとして、地域の人と先生の想いを合致させるため、子ども・地域の人・学校の様子をみる、思ったことを言うてみる・やってみる、地域と先生の想いをそれぞれに言うてみることを積み重ね、両者をつなげた様子を話されました。

★栗栖さんは、中学生が赤ちゃんとふれあう事業を通して、様々な気づきがあることをあげ、全ての参加者が何かお土産があるように、双方向の学びを促したいと話されました。また、それを持続可能なものにするため、ふり返りの大切さをあげておられました。

★佐々木企画幹は、学校側として3人の方と地域に関わってきた立場から、いろいろ困難なことがあったが、理想を語るだけでなく今できる事からしようとスタートした経緯を話されました。

しまねの社会教育基礎講座

6/10(水) 益田
6/16(火) 浜田

[講義] 社会教育の役割と県社会教育行政の方針と事業
[講師] (益田会場) 品川智成氏



益田教育事務所
社会教育スタッフ企画幹
(浜田会場) 佐々木伸氏 →
浜田教育事務所
社会教育スタッフ企画幹



[演習] 「あなたの住む地域(まち)をさらに元気にするためにできることを考えよう」
<即答フリップ方式全員参加型ディスカッション> ()は出た意見
Q1. あなたの住むまちの“元気さ”を点数で表すと？ **現状**
Q2. 実は私、この地域の〇〇が好きなんです！ **魅力**
(自然、シニア力、誰とでも挨拶ができる、ゆったり・・・)
Q3. あなたの地域で「もったいない」と思うことは、何ですか？ **価値**
(若い力、中高生パワー、関わりが薄いこと、人を活かしていない、行動に移さない・・・)
Q4. あなたが考える理想の地域とは何ですか？ **理想**
(支え合う、住み続けられる、どの世代も参加できる、一人ひとりに役割がある、子どもたちが帰ってくる、知っている人がいっぱい・・・)

